



筆者のカーン氏の創設した「カーンアカデミー」(教育ウェブサイト)は、「質の高い教育を、無料で、世界中の全ての人に提供」しようとする。サイトには、数学、科学、経済、ファイナンス、歴史、美術などのレッスンビデオが4千本以上並ぶ。

カーン氏は、「ほどほどの知識がある、聞き分けが良くて標準的な市民、労働者をつくりだす」フロイセン型モデルの学校に対して、「家では講義、学校では宿題」という「反転」モデルを提示する。個人のペースに合わせて、100%理解してから次の単元に進む。落ちこぼれはない。

MIT(米国マサチューセッツ工科大学)に入学したカーン氏は、周りのみんなの頭の良さにおじけづく。しかし、「途方もない時間の無駄」である大教室の講義を受動的に学ぶ学生を



世界はひとつの教室

「学び×テクノロジー」が起こすイノベーション

サルマン・カーン 著、三木俊哉 訳
1680円 ダイアモンド社
☎03-5778-7200

見て、そういう授業をサボり、本当に役立つ授業を受けるなどの「能動的学習」をすることによって、結局、彼らの2倍近い講座を取得することができたという。われわれは、YouTubeで検索して「カーンアカデミー」の内容をつかんでおく必要がある。しかし、それ以上に、カーン氏の学校教育への問題提起を真摯(しんし)に受け止めるべきである。カーン氏は、生徒の時に「テストを受けて次に進みたい」と学校側に申し出たところ、「そんなことを認めたら、全員に認めなきゃいけません」と拒否されたのである。学校側の事情はよく分かる。だが、同時に、個人の状況に合わせて学習を支援しなければならぬことを忘れてはなるまい。

過去の遠隔教育は、カーン氏が批判するような受動的な一方、向授業の象徴であった。しかし、ネットの持つ自己選択性、進捗自由性、双方向性は、これを逆転させようとしている。

(聖徳大学教授・西村美東士)